

早稲田大学審査学位論文

博士（人間科学）

概要書

家族経営と外国人労働力

農業分野における外国人技能実習制度の現状からみて

Family Farm and Foreign Labor Force

-Present State of Foreign Technical Intern Training System in Agriculture-

2015年1月

早稲田大学大学院人間科学研究科

軍 司 聖 詞

GUNJI, Satoshi

博士論文概要

研究の目的および方法

本研究は、世界に類を見ない、外国人労働力を家族経営農家に入れる日本の農業分野の外国人技能実習制度は、製造業等の他産業ではみられない農業分野独自の取り組みを行うことによって、その活用を達成しており、その活用現況ないし独自の取り組みのありようを明らかにする必要があるとの問題意識から、茨城県八千代町をはじめとした農業分野における実習制度の代表的活用地においてヒアリング調査を実施し、これらにおける制度活用の現況と、その取り組みのありようを考察した。また、製造業等の中小企業向けに設計された現行制度を援用している農業分野では、監理機関や受入農家等による独自の取り組みでは対応しきれない課題が生じていることも明らかにし、農業分野の特性ないし実情に即した実習制度の設計が不可欠となっていることについても考察した。

研究の内容および構成

本研究は、第 1 章に序論、第 2 章に実習制度の概要、第 3 章に農業分野の実習制度に関する先行研究を概説した第 1 編に続き、第 2 編において、日本有数の大規模かつ長期的な実習制度の活用地である茨城県八千代町を代表事例として捉え、第 4 章に JA の監理、第 5 章に事業協同組合の監理、第 6 章に送出し機関の送出しに関する考察を行い、農業分野における実習制度活用の現況と、その達成に不可欠となる様々な取り組みについて明らかにした。

農業分野における実習制度の代表的活用地である茨城県八千代町を捉えた第 2 編に対し、第 3 編では、代表的活用地の事例のみでは捉えきれない特徴的な制度活用を行う地域を捉え、これらにおける制度活用の現況と、その達成に不可欠な取り組みの数々について考察した。第 8 章では少人数受入型の制度活用を行う茨城県神栖市が、第 9 章では短期受入型の制度活用を行う北海道シ市と長野県南牧村が、第 10 章では中規模活用を行う熊本県宇城市が捉えられた。

続く第 4 編では、第 3 編までに論じられた、家族経営農家に外国人労働力を入れる農業分野の実習制度活用を成功させる、直接的な取り組みの数々に対して、その間接的な取り組みについて、第 11 章では実習制度活用の広がりとして先行地域の制度活用を倣う新規活用地域の取り組みが、第 12 章では地域単位の制度活用を間接的に達成させている県単位の制度活用のありようが、第 13 章で

は大規模農業法人の制度活用による周辺家族経営受入農家への影響が捉えられ、論じられた。

以上の諸考察から、家族経営農家に外国人労働力を入れる農業分野の実習制度活用には、製造業等の他産業には見られない様々な取り組みが不可欠となっていることが明らかとなった。また、短期受入型の制度活用地や中規模活用地などでは、様々な取り組みのみでは対応しきれない課題も生じており、農業分野の実情に合わせた制度設計が不可欠であることも指摘された。